

今年の秋は、コロナ大学に客員教授として4カ月滞在することになった。東大の公共政策大学院とコロナ大学の公共政策大学院の間の学術交流協定では、学生交換、教員交流が可能である。今年には東大から3人の学生をコロナ大学に送り込むのだが、コロナ大学からの東大への留学希望者がゼロになってしまった（日本への関心が低いのか？）。

## 日本への関心が低い

のか？）。協定では学生の同数交換をうたっているのですが、一方通行の状況が続くと交流協定違反になる。そこで、日本への興味を引き出し、将来、東大へ留学を希望する学生を発掘するのが私の役割だ。

そのためにも、授業を1科目教えさせてもらうことにしたので、**「日本の金融資本市場」**では学生が集まりそうもないので、「**アジアの金融資本市場**」にしてくれ、と言われた（そこまで日本への関心が低いのか？）。  
コロナ大学のビ

東京大教授

伊藤 隆敏

ビジネススクールの外国人新入生は中国、インド出身が多いという。日本のバブル全盛期には、米国のビジネススクールに来自る（アジア系）外国人といえば日



本人だった。

経済に勢いがあると、きには、国家も企業も、将来の政治経済のリーダーとなるべき人材に投資をするのは当然だ。さまざまな奨学金

を準備して送り出す。問題は、MBAやMPPを取得して帰国する人材の処遇である。

日本では年功序列が前提の昇進により、多くの留学組がその特技を生かせず、企業・官庁の中で埋没するか、外資系企業へと転職していった。その結果、日本企業は外国企業の買収・経営は得意ではないし、さまざまな国際的基準作りではないのも臍（ほぞ）をかむ。中国やインドは日本の轍（てつ）を踏むのか、真の大国に成長するのか。